

県営金亀公園（（仮称）彦根総合運動公園）整備事業について

県営金亀公園（（仮称）彦根総合運動公園）は、2024年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会での活用はもとより、将来のスポーツ振興やスポーツを通じた健康増進、地域の活性化のための施設として整備を進める。

1 令和元年度（2019年度）の主な事業予定について

(工事)

- ・ 土木施設撤去工事（2018年度～2019年度）
 既存施設（舗装版、擁壁、水路など）の取壊し撤去
- ・ 公園等整備工事（2019年度～2020年度）
 東側拡張部の地盤対策および基盤整備
- ・ 連絡橋整備工事（2019年度～2020年度）
 下部工・上部工
- ・ 第1種陸上競技場新築工事（2019年度～2022年度）
 第1種陸上競技場の建築

(調査設計)

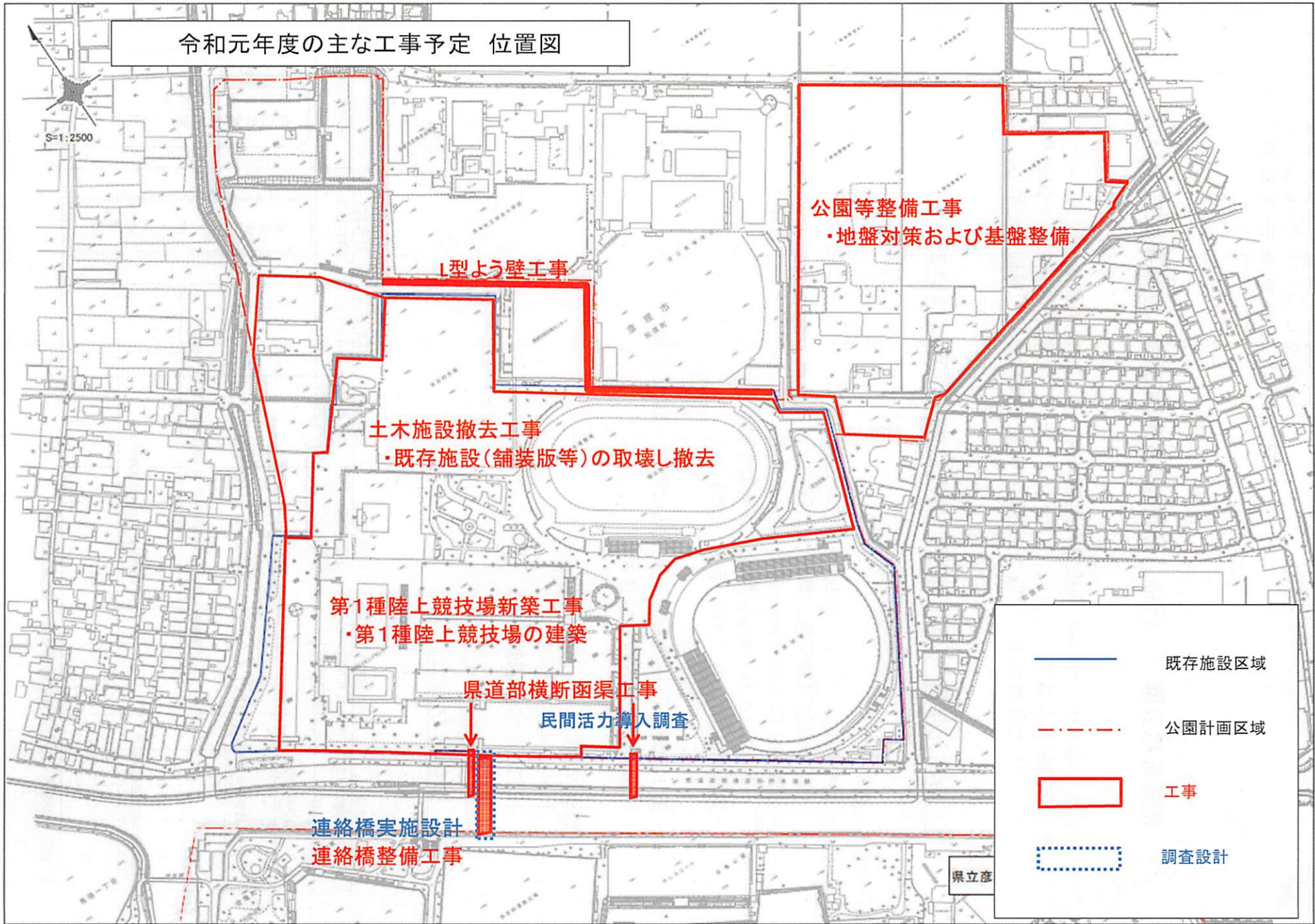
- ・ 連絡橋実施設計
- ・ 民間活力導入調査

2 整備スケジュール

| (6年前) 平成30年度(2018) | (5年前) 令和元年度(2019) 【開催内定】 | (4年前) 2020年度 (東京オリパラ) | (3年前) 2021年度 【開催決定】 | (2年前) 2022年度 | (1年前) 2023年度 | 2024年度 | |
|-----------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------|-----------------|-------------|--------------------------|
| 公園敷地の拡張 | → | | | | | 国スポリハール大会開催 | 国民スポーツ大会・ 全国障害者スポーツ大会 |
| 既存施設解体 | → | | | | | | |
| 第1種陸上競技場実施設計 | → | | | | | | |
| | 公園等整備(基盤整備・地盤対策・第3種陸上競技場・連絡橋など) | | | | | | |
| | 第1種陸上競技場建築施設工事 | | | | | | |

※ 現時点の想定であり、工事の実施状況により適宜見直す。

令和元年度の主な工事予定 位置図



公園等整備工事
・地盤対策および基盤整備

L型よう壁工事

土木施設撤去工事
・既存施設(舗装版等)の取壊し撤去

第1種陸上競技場新築工事
・第1種陸上競技場の建築

県道部横断函渠工事
民間活力導入調査

連絡橋実施設計
連絡橋整備工事

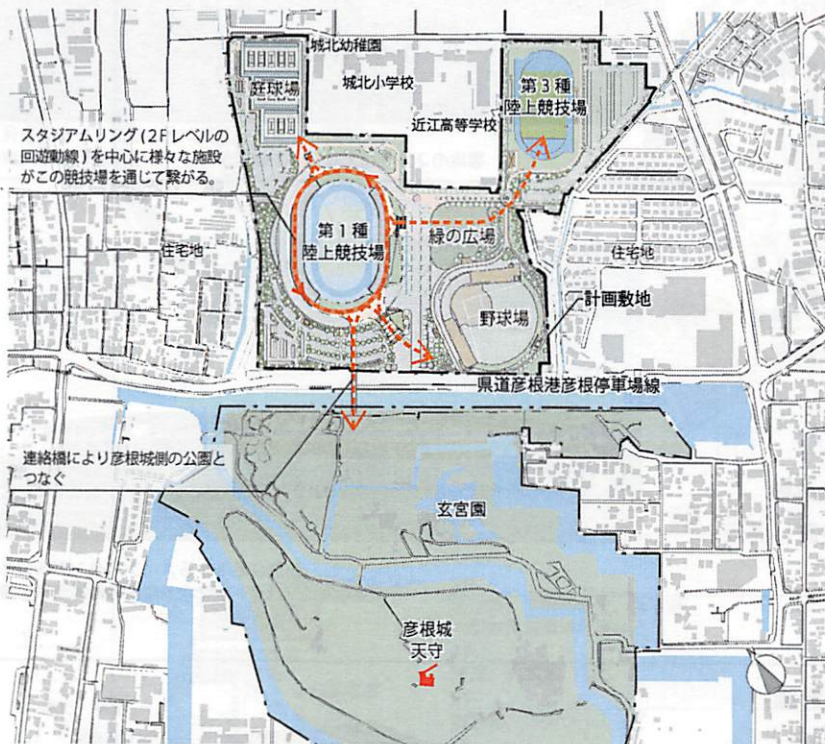
- 既存施設区域
- - - 公園計画区域
- 工事
- ⋯ 調査設計

県立産

滋賀の歴史文化を継承し、 親しみをもてる交流の架け橋となる競技場

2024年に開催する国民スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会の主会場(開・閉会式と陸上競技の会場)として、滋賀県立彦根総合運動場に第1種陸上競技場を備えた公園として再整備します。

第1種陸上競技場は、彦根城の世界遺産登録に向けた取組や防災機能の強化等に配慮した建物形状、競技者の使い易さや構造安全性、環境負荷の縮減等を総合的に考慮した設計としています。



第1種陸上競技場の計画概要

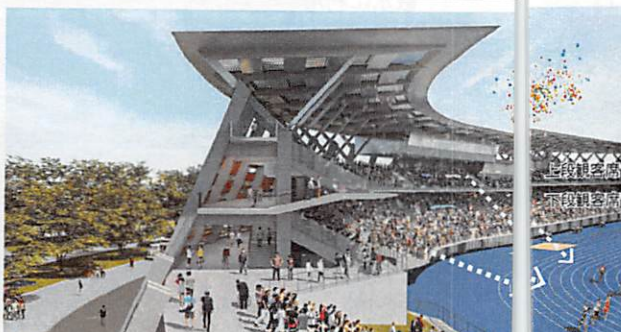
| 敷地 | | トラック・フィールド | |
|-------|--|------------|--|
| 所在地 | : 滋賀県彦根市松原町 | トラック | : 400m×9レーン |
| 面積 | : 21.8ha | レーンの幅 | : 1.22m |
| 建物 | | 舗装 | : 全天候舗装 (ウレタン舗装 スプレーエポス) ティフトン芝 (107m×71m) |
| 建築面積 | : 14,235㎡ | ■施設概要 | |
| 延べ床面積 | : 24,043㎡ | 飛躍競技施設 | : 走幅跳 6カ所 三段跳 6カ所 棒高跳 6カ所 走高跳 5カ所 |
| 構造 | : 鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 | 投てき競技施設 | : 砲丸投 4カ所 やり投げ 2カ所 円盤投・ハンマー投 2カ所 |
| 規模 | : 5階建て | 障害物競争設備 | : 水濺をレーンの外側に設備 |
| 最高高さ | : 24m | | |
| 収容人員 | : 15,000人 メインスタンド: 7,000席 (北サイドスタンドに大型映像装置を設置) | | |

第1種陸上競技場の5つのコンセプト

- 1. コンパクトな競技場**
 - ①メインスタンドの観客席を2層構成にし、フィールドとの距離を短くした臨場感の高い観戦が可能
 - ②競技場周辺に空間を生み出し、住宅地からの距離を離すことや樹木を植栽し圧迫感を低減
 - ③建物の幅や屋根の架設面積を縮小したことによるコスト縮減
- 2. 歴史景観に配慮した競技場**
 - ①伝統的な真壁造りや下見板張り
 - ②かつての内湖にあった百間橋を柱と梁を連続で檜材に構成
 - ③城下町の景観と調和するように色調を採用
- 3. 周囲を自由に回遊できる**
 - ①2階レベルに段差なく回遊できる歩道空間(スタジアムリング)を設置
 - ②回遊できる歩道空間に三つの階段と一つのスロープを設け公園内各施設への動線を確保
 - ③歩道空間と連絡橋を接続し市営金亀公園へのアクセスを向上
- 4. 環境負荷の縮減を図る**
 - ①遮光・防音ルーバーを設置し住環境負荷(光もれ、音もれ)を低減
 - ②競技場照明をはじめとする全ての照明にLED器具を採用
 - ③県産材の活用に努め輸送によるCO₂の発生を縮小
 - ④屋根に降った雨水はフィールド芝等への散水に利用
- 5. 安全で安心な競技場**
 - ①耐震性の高い構造架構
 - ②災害時の緊急輸送機能や避難施設機能を確保
 - ③発災時には貯水した雨水をトイレの洗浄水等に活用
 - ④日常動線が避難動線になる、安全でわかりやすい避難計画



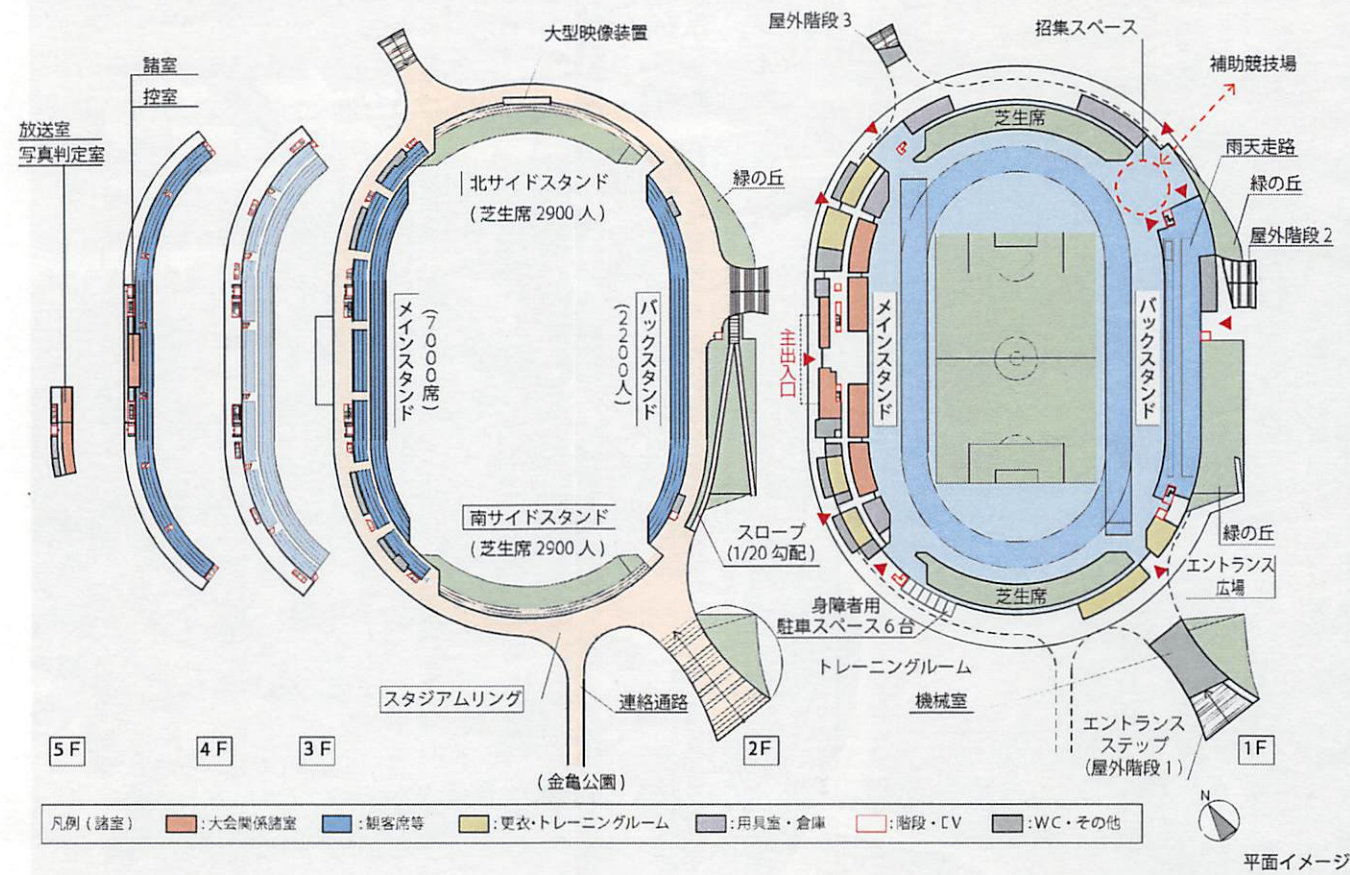
彦根城天守からの眺め: 周囲を樹木で囲った景観に調和した競技場



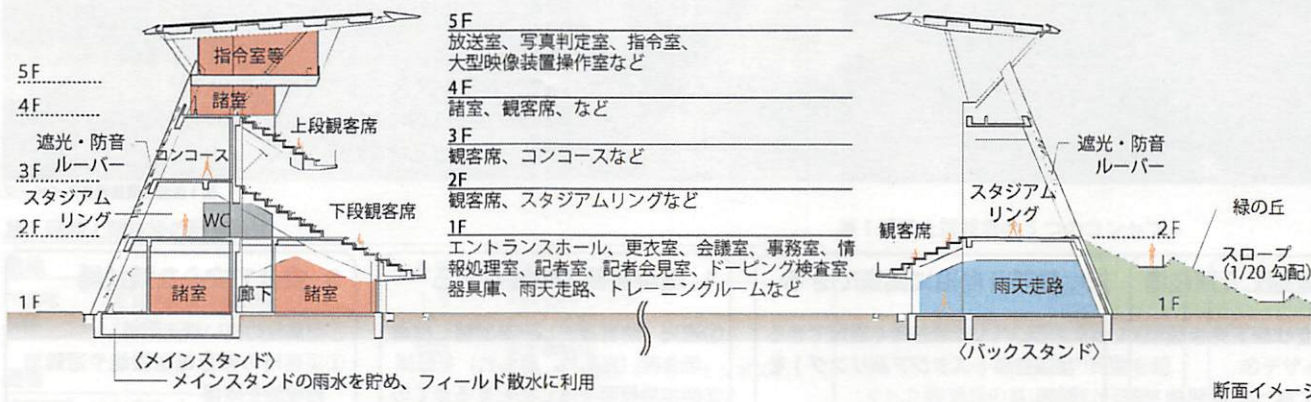
公園と第1種陸上競技場をつなぐ「緑の丘」と「大階段」

金亀公園 ((仮称)彦根総合運動公園) 第1種陸上競技場建築実施設計業務委託

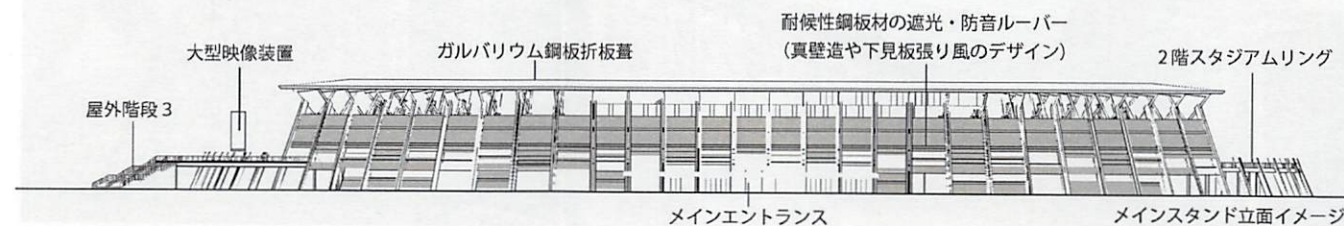
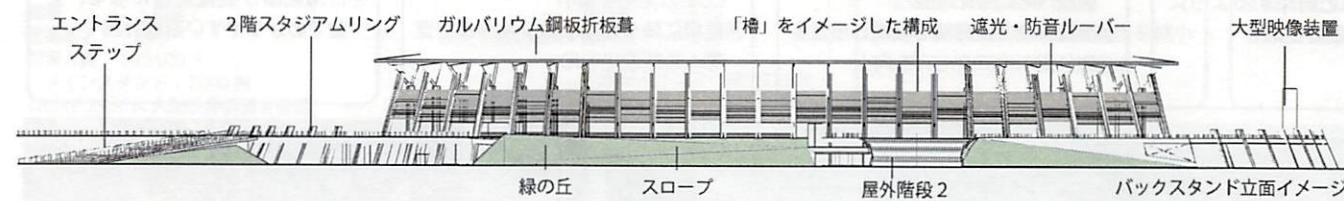
各階平面・断面・立面イメージ



平面イメージ



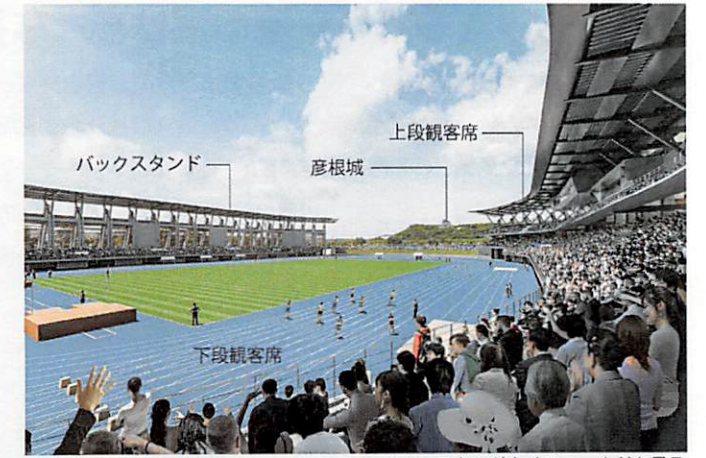
断面イメージ



■ 平面計画

3つの視点を重視した計画 (競技者、観客、管理運営)

- ・メインスタンドの1階に競技関係や管理部門の諸室を機能的に配置
- ・会議室はフィールドに面して配置し、可動間仕切り壁を用い多様な用途に対応可能
- ・2階の観客席の周囲を回廊で繋ぎ、各スタンドへのアクセスが容易
- ・メインスタンドは2層式とし、観客席をできるだけフィールドに近接させ臨場感を向上
- ・バリアフリーに配慮した危険な段差がなく誰もが使いやすい競技場 (フィールドと諸室は同レベル)



メインスタンドよりフィールドを見る
客席の2段化により全ての座席がフィールドに近い環境を実現

■ 立面計画

1. 近隣環境に配慮した計画

- ・競技場は内側に傾斜した形状とし、近隣に与える圧迫感を低減
- ・周辺景観に馴染ませるため、最高の高さを抑制 (24m以下)

2. 「和」の景観に配慮した計画

- ・組柱を規則的に連続させ櫓形状で構成した外観
- ・遮光・遮音ルーバーを下見板張り風に設置し周辺景観と調和

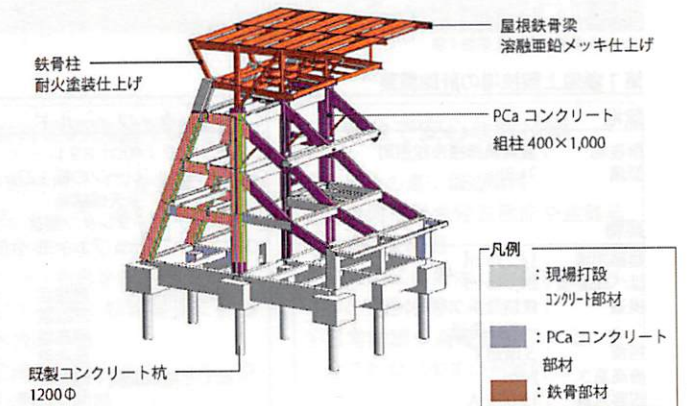


西側住宅地からメインスタンドを眺める
建物のコンパクト化により周囲の緑地面積の確保

■ 構造・設備計画

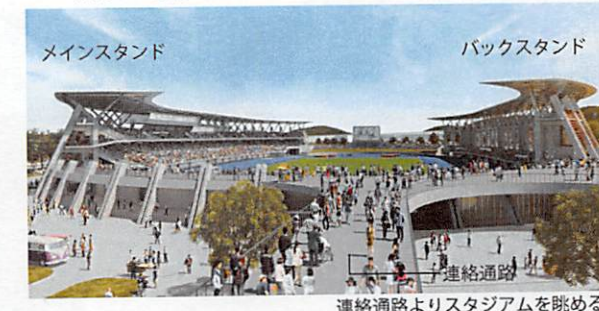
1. 安全で合理的な和の構成 (断面・構造計画)

- ・主要な柱は 400×1000mm を対とした組柱とし、構造体のボリュームを軽減
- ・観客席の振動を低減するため下層部は PCa 部材を用いた RC 造とし、上層部は鉄骨造を採用し建物を軽量化



2. 環境に配慮した競技場ならではの設備設計

- ・競技用の照明を屋根裏部に設置し、周囲への光漏れを低減
- ・観客席やフィールド用のスピーカーを分散配置し、周囲への音漏れを低減
- ・屋根に降った雨を地下に貯水し、フィールド芝の散水に利用



連絡通路よりスタジアムを眺める



エントランスホール



雨天走路 (バックスタンド 1F)

メインスタンド架構イメージ